

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/2階ユニット)

事業所番号	2771602063		
法人名	特定非営利活動法人エコロジーネットワーク		
事業所名	グループホームエコ吹田		
所在地	吹田市南金田2-3-1		
自己評価作成日	令和4年5月1日	評価結果市町村受理日	令和4年6月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が安心してご自宅で生活しているような施設を目標にしております。医療面でも往診の先生と連携を取り、スタッフの継続率がよく15年以上勤務しているスタッフもいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年5月26日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して18年、NPO法人の趣旨として公的扶助受給者を主な利用者とし、「本人と家族が安心して生活できる、安価で良質なサービスの提供」の統一理念の下、利用者の状態とケアの実況を踏まえた理念を職員で創出し、日々の実践に努めている。管理者を含め永年勤続の職員の弛まざる努力と、ベトナムからの新入職(男女各2名の留学生)の若い力と新鮮な観察、気づきが、入居歴の長い利用者にも有効に作動しての「エコ吹田」がある。全職員のPCR検査と抗原キット検査によりコロナ感染防止を徹底させ、2020年のコロナ禍発生以来、比較的非常勤職が多い中で一人の感染者も出していない日々の努力が、利用者と家族の「安心して生活できる」信頼&感謝となっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「利用者の終の棲家になってもらえるように、気持ちよく穏やかに過ごしていただく」各職員は実践につなげるよう努力している。	法人理念「利用者の安定した生活、本人・家族が安心できる安価で良質なサービスの提供」に沿った独自の理念を掲げ、日々の実践に努めている。利用者の状態や環境の変化と必要に応じて、話し合いで見直しを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入しているがコロナ過のため中止になりましたが自治会で行われる夏祭り・敬老会・小学生からの鉢植え・年賀状をいただく。	地域の各行事に参加、事業所主催の夏祭りに招待、ボランティアや体験学習の受け入れなど多彩なつきあいが、コロナ禍で中止となっている。自治会長(民生委)と月1回の電話連絡で情報を入手、小学1年生から鉢植えや年賀状が届くなどの交流は継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特には行っていないがコロナが蔓延する前には認知症サポーターの養成講座に参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過により集まりは行っていないが施設スタッフが集まり2カ月に一度会議を行っている。その詳細に関してはご家族に郵送している。	昨年度前半の3回(5・7・9月)は実質開催としているが、以降は書面会議とし、入居者状況、コロナ発生状況、行事内容、面会などの報告書を会議メンバー(地域包括職員、地域のケアマネジャー、自治会長)と家族に郵送し、電話で意見を聴いている。前回に課題とした、家族と地域の知見者への参加要請については、コロナ禍に在って取り組みは進行していない。	開設して18年、認知症ケアの実績を基に、利用者と家族が安心して暮らせるよう社会的信頼を得ると共に、地域の認知症への理解とケアの向上を進めるためにも、会議メンバーの拡充に努めること、外部評価結果について報告するなど、会議内容の工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご入居者様の担当の方と随時連絡を取り合い協力関係を築いている。特に生活福祉課とのやり取りが多い。	ほぼ全員が公的扶助受給者であることから、担当部署との連携・連絡は欠かせないものとなっており、地域包括センターとは入居者受け入れについての相談が多いとしている。グループホーム連絡会には電話かメールで参加しており、コロナ感染についての話題・情報が主となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んでいるが迷い人になる恐れの方がご入居者が居るのでスタッフが長い時間帯のみ玄関の施錠を解除している	身体拘束適正化委員会の指針を有しているが、拘束の実例が無いとして委員会の開催には至っていない。が、既定の研修に加えて、毎月の職員会議時にテーマを設けて研修を行い、拘束については正しく理解している。日常での不適切な言動については注意し合っている。	指針に基づく構成委員による3ヶ月ごとの適正化委員会会議の推進と、議事録の整備、会議内容の職員への周知により、身体拘束を行わないケアについての一層の努力と継続に期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い参加できなかったスタッフには資料を提供し、個々にて学習している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居前に独居の方には成年後見人もしくは保佐人の方が着くようにしている。職員に関しては研修に盛り込んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い疑問点の無いようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロアの玄関に意見箱を設置し出来る限りお応えできるようにしている。	面会中止状態で、家族の意見を親しく聞く機会を失っているが、担当者からの月1回の電話連絡と、職員が1～2名の利用者を担当して写真とコメント付きの便りを送付し、家族から感謝の言葉が多くある。朝食が少ない・季節の野菜や果物を、との意見に体重管理を説明し、厳重な感染防止体勢で場所と時間を選んでの買い出しで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見が聞けるよう各フロアリーダー設け話しやすい環境を作っている。	月1回の会議の他に、リーダーを中心に偏らないシフト編成、フロア間の移動などで気づきの変化、多様性を求め、運営の改善に繋いでいる。管理者と1対1で食事を摂る機会を設け、個人的にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ過により整備に関しては不十分なところはあもの環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者より現在の状況の報告を受け出来る限り反映している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会に参加交流している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には生活環境など状況を把握伝達し要望を聞き安心していただけるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り面談等を行い意見の交換をし良い関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時等にご家族・関係者様よりご本人の現状を聞きながら現状を把握したうえでより適したサービスを検討するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に何か目的をもって行い介護をされる側だけにとどまらないように努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは常に連絡を取り合い些細な事も見逃さずにご本人の意向などを共有出来るよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居前に使用していた家具等の持ち込みやアルバム・手紙の持参をしていただきが家族・知人の来所を受け入れている。	入居の長期化に伴う高齢化、ADLの低下、認知症の進行などで馴染みへの関心が希薄になる現状では、今、身近にいる職員と仲間との関係を大事にして、気持ちよく穏やかに安心した暮らしの支援に努めている。以前は、縁戚者や宗教関係の人の来訪もあったが、全て中止となり、唯一、2ヶ月に1回の訪問理美容者がお馴染みさんとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に引きこもらないように努め、レクリエーション家事などを通して関わり支えあえるよう支援に努める		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や電話にて連絡を取るよう心がけている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族からの意向について常にお話を聞き把握に努めている	その人の歩いてきた道程や、性格・家族背景などを良く知ること、職員の思い入れを先行せず、事の大小に拘らずに先ず受け入れる、否定しない姿勢を基本として希望、意向の把握に努め、情報を共有し、介護計画と実践に繋ぐとしている。出来ることを見出してやってもらう、出来ないことを手伝うを旨としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族ケアマネ等とのカンファレンスに十分な時間を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な方法にて常に話し合いを設け日常生活の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフを設けケアマネ・管理者含めカンファレンスを行っている	職員による毎月のモニタリングと3ヶ月に1度のカンファレンスを基に、管理者、ケアマネジャー、担当職員による6ヶ月毎と更新期、また必要に応じてのサービス担当者会議で医者や看護師の所見を参考に、計画作成と見直しを図っている。家族には主に電話での説明時に意見を聴き、結果について同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録と連絡ノートを活用しスタッフが共有できるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族に代わり病院の付き添いや入退院のお手伝いをしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の地域の担当者t連絡を取ったり近隣の小中校と交流を取っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月に1回以上は提携の病院の先生に往診に来ていただいている。	いままでの外部受診は脳神経外科、精神科など、職員同行で受診している。協力医療機関から内科月2回、歯科週1回の訪問診療がある。週4日出勤の非常勤看護師とは24時間オンコール体制があり、主に健康管理を行い、必要に応じて看取りの研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を通じて入居者」の健康状態の管理、コロナ過の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療関係者及びケースワーカーと連携を取り合うことにより情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時にはもちろん終末期に関しての意向は十分確認を取り、現在は重症化した入居者はいないが可能性のある方にはご家族・ドクター・ナース・管理者と話し合いを設け今後の方針を共有出来るよう努めている	契約時に看取りの指針について説明し同意を得ている。状態の変化により医師の終末期に入ったとの判断の下に、医師、家族とともにカンファレンスを行い、手順を説明し、再度同意を得て対応を検討している。医師との24時間オンコール体制で、今期1名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアルを作成し研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に防災訓練を行い、夜間に関してはマニュアルをもとに研修を行っている。	基礎の災害訓練は、火災を想定して(日中想定のもとに)1回行われており、夜間想定も計画中である。地域の福祉避難所に指定され、水・食料、缶詰、米等が1階の厨房に備蓄され、フロアには懐中電灯が備え付けられている。水害時、利用者は垂直避難としている。職員は10年以上のベテラン職員が多く、自治会との地域連携体制も取れている	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重することには十分注意をし声掛けを行うように努めている。	年間研修計画のもと接遇マナー研修が行われている。利用者の呼び方は、幼少期に呼ばれていた呼び方を使いちゃん呼びの人もいる。言葉遣いは日常的自然な話し言葉としている。居室への出入り時にはノックや声掛けを行い、プライバシーへの配慮がある。重要書類は鍵付きの書庫に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設サイドで物事を決めずに常に本人ご家族の意向を傾聴して決定するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活や疾患に支障が無いように本人のペースを保てるよう心掛ける		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家事等が可能な方には負担の無いよう手伝っていただいている	3度の食事は、1階の厨房にて一括調理がなされている。時には献立の変更も可能であり、季節のレクレーションや行事食では毎月手作りおやつレクを行い、お好み焼き、たこ焼きなど鉄板を使った粉物が喜ばれている。職員は食事介助者が多くおやつのみ一緒に食べている。利用者の3分の1が職員と共に食事の準備や片付けに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取表を用いて管理している。食事以外にも10時と3時のお茶の時間を設けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回歯科受診があり、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて個々の排泄状況を把握し、トイレ声掛け誘導・パット交換し自立に向けている	自立利用者は1名リハビリパンツが12名、基本はトイレ誘導とし、介護度の高い利用者も車いすを利用してトイレ排泄を心掛けている。夜間は3時間ごとの見回りであるが、個人に寄り添った安眠支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・軽い運動を勧めたり排便を促す食物の提供している。またどうしてもという時にはドクターに相談し下剤の処方をお願いする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は不公平の無いよう希望に合わせている	入浴は基本週2回としているが夏場は希望によりシャワー浴を増やすこともあり、一人ひとりの希望に沿った入浴支援体制がある。時に嫌がる利用者には無理強いすることなく、日にちや時間を変えたり、相性の良い職員との交代を行ったり柔軟に対応している。ゆず湯、菖蒲湯、入浴剤などを使って入浴を楽しみ、季節を感じるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠できるようにリビングにソファを置き、状況に応じてベットへ誘導している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より個々の薬に関する説明・指導がありスタッフ間で共有している。薬剤情報を提示している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをお願いしたりカラオケ・ラジオ体操レクリエーションと担当スタッフが率先して行う		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過ではほとんどできてないが、加えてスタッフが十分でないため希望に添えないときがあるが出来る限り支援行う	コロナ禍以前の外出はお弁当持参での花見、秋の紅葉散策などの遠出も楽しんでいった。コロナ禍で日常的な外出も無くなり、駐車場の開けた場所やエントランスでおやつを楽しんだり、花壇のお花の水やりなどで気分転換を図っている。今年は初詣のみ外出を行い好評を得た。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・ご家族と相談の上希望があった場合、自己管理可能な入居者にはお金を所持・使用いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	くつろげるソファを設置し、季節を感じられるよう装飾を行い居心地の良い空間作りに努めている。	共用のスペースでは、壁に折り紙や切り絵などで季節を感じる飾り付けを職員とともにやっている。2・3人掛けのソファが3脚設置されており、相性の良い人との居場所づくりに努めている。テーブルの座席はイベントなど、その日の雰囲気でも決めることもある。空気清浄器や加湿器の設置があり、掃除は専用職員が行って清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人掛け2人掛けの椅子を用意しそれぞれの居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた馴染みのあるものを持ってきていただいている	ベッド、エアコン、クローゼット、防災カーテン、ナースコールが設備されている。タンス、鏡台、仏壇、家族の写真などを持ち込み居心地よく過ごせる工夫がみられた。寝具はリースとしている。居室担当職員が季節の衣替えや身の回りなどに注意を払って整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー仕様で車いすでも自立を促すことが出来るよう工夫している		